

TAD Letter | 12

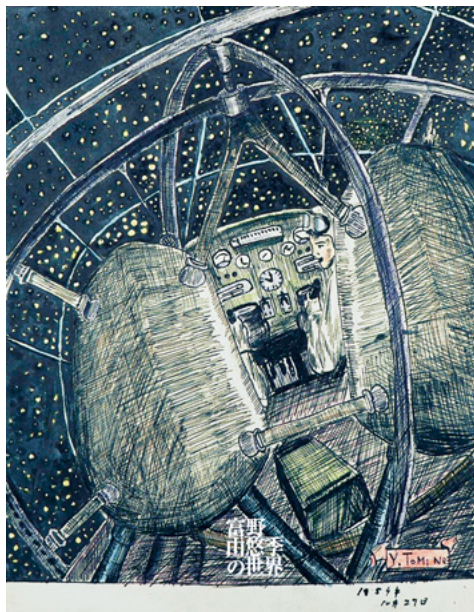


富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

富野由悠季の世界

2020年11月28日（土）～2021年1月24日（日）



【○掲載図版クレジット】
「宇宙船コックピット」（富野由悠季、1954年）©オフィス アイ

表紙：「富野由悠季の世界」メインビジュアル
©手塚プロダクション・東北新社 ©東北新社 ©サンライズ
©創通・サンライズ ©サンライズ・バンダイビジュアル・バンダイチャンネル
©SUNRISE・BV・WOWOW ©オフィス アイ

よしゆき

富野由悠季（1941年神奈川県生まれ）は、アニメーション映画監督、脚本家、作家として様々な作品を生み出し、国内外に多大な影響を与えてきた存在です。本展は、全国6会場の美術館により企画・開催され、各館ごとにキャッチコピーを決めています。当館ではご当地感を打ち出した「ガンダム、立山を臨む。富山県美術館」のもと、富野監督の半世紀以上にわたる仕事を紹介します。

アニメーション演出家としてのデビューとなった『鉄腕アトム』をはじめ、富野監督はフリーランスのアニメーション監督として様々な作品を生み出してきました。なかでも代表作『機動戦士ガンダム』（1979）のシリーズは、宇宙移民の時代での人類同士の戦争という設定を通した人間模様を描き、アニメーションの世界に新境地を拓きました。このシリーズをはじめ、『伝説巨神イデオン』（1980）、『聖戦士ダンバイン』（1983）など、その監督作品は国内外で高い評価を得ています。

本展では、「アニメーションは映画だ」という思いを軸に展開されてきた作品と制作のあゆみについて紹介します。直筆の絵コンテ、仕事を通してきたクリエイターたちのデザイン画、資料など大充実の展示内容を通して、その仕事の全容に迫ります。会期中には、富野監督によるトークイベントなどを準備していますが、最新情報は当館ウェブサイトなどを通してお知らせします。

開催概要

開館時間	9:30～18:00（入館は17:30まで）
休館日	毎週水曜日、年末年始（12月29日～2021年1月3日）、1月12日
会場	富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催	「富野由悠季の世界」富山展実行委員会（富山県美術館、北日本新聞社）
協力	サンライズ、東北新社、手塚プロダクション、日本アニメーション、オフィスアイ
企画協力	神戸新聞社
観覧料	一般 1400円、大学生 1000円、高校生以下無料、一般前売り1200円 富山会場限定 リピートチケット4800円（4回観覧分。会期中も販売） ※会場内の三密回避のため、本展は団体観覧券の取り扱いを行いません。ご了承ください。



見どころ

Ⅰ 主要作品紹介 Ⅰ

01

富野由悠季の半世紀以上の仕事を一望、世界初の大回顧展
会場では、富野監督の幼少期から、科学技術や文学・映画などへの興味をはぐんだ中学・高校時代、映画制作を志した大学生の頃までの絵画や文章なども紹介します。

02

「この作品も富野監督！」知っている作品が見つかります。
フリーランスとして携わったテレビアニメーション作品についても、紹介します。富野監督の仕事を詳しく知らない方でも、見たことがある、知っている作品に出会えます。

03

富山県美術館、初のアニメーション映画の企画展
大充実の展示内容とともに、映像インスタレーションなど見どころが満載です。



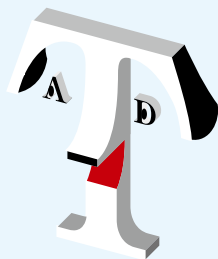
〔◎掲載図版クレジット〕

左 『宇宙船』(富野由悠季、1954年) ◎オフィス・アイ
右上 『無敵超人ザンボット3』 ◎創通・サンライズ(1977年)
右下 『機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙編』 ◎創通・サンライズ(1982年)

お知らせ

新型コロナウイルス感染防止のため、
混雑時は入場制限を行います。

- ・会場内での過密を避けるため、90分以内を目安とした観覧にご協力をお願いします。
- ・ご来場の皆様には、マスク着用／入場時検温／適切な距離の確保／咳エチケット／
風邪症状がある場合の来場自粛など、ご協力をお願いします。



やさしい日本画 —なぜ?をみつける5つのヒント—

2021年2月25日(木) - 4月4日(日)



菱田春草《武蔵野》1898年 当館蔵

数ある美術作品の中でも、とりわけ日本画の美しさには、どこかやさしさが感じられます。「やさしい」という言葉には、落ち着いた細やかな柔和さ、つつましい奥ゆかしさ、などが含まれますが、作品と向き合う中で“なぜ”そのように感じられるのかを意識する機会は案外少ないのかも知れません。本展覧会では、5つの視点(いつ、どこで、誰が、何を、どのように)をヒントにして日本画作品の魅力を探ります。季節の草花や、心温まる風景、穏やかな色使いや、荘厳な精神性、或いは哀愁を感じ

る面持ちなど、画面の隅々に潜むやさしさの一端に触れながら、改めてじっくり作品を見つめ、味わってみてはいかがでしょうか。

また、本展は当館を代表する明治期から戦後にかけた近代以降の日本画の収蔵品を一堂に公開する貴重な機会でもあります。岩絵具や墨、和紙、麻紙、絹など古くから親しまれる描画材・支持体を用いた伝統的な絵画技法によって表現された日本画の魅力を、2つの展示室で見えていきます。

開催概要

開館時間	9:30-18:00 (入館は17:30まで)
休館日	毎週水曜日
会場	富山県美術館2階 展示室3、4
主催	富山県美術館、北日本新聞社、富山テレビ放送
観覧料	一般 700 (550) 円、大学生 350 (270) 円、高校生以下無料、一般前売り550円 ※ () 内は20名以上の団体料金

国際工芸アワードとやま2020

2021年2月25日(木) - 4月4日(日)

富山県の工芸の魅力を国内外に発信する「国際工芸アワードとやま2020」を開催します。この展覧会は、工芸の世界的な潮流を捉え、工芸の未来ビジョンを描くことを目的とし、50歳以下の工芸に携わる若き作家、職人、デザイナーなどを対象とした新たな国際公募展です。日本をはじめ世界各地の工芸が培ってきた、様々な技法や材料を活かした表現豊かな作品をご紹介します。世界の工芸／日本の工芸／富山の工芸を会場で体感いただきたいと思います。

また、今回の公募の結果、世界62の国と地域から709点の応募がありました。3月9日に開催した一次審査会では、国内外の美術館に多数収蔵されている工芸各分野の作家に審査していただきました。それぞれの専門分野を超えて、工芸作品・表現・技術を総合的に審議していただき、厳正な審査で選ばれた約120点が会場に展示されます。新型コロナウイルス感染拡大の影響により二次審査会・展覧会等を延期させていただきましたおりましたが、来年2月22日に、国内外から工芸に精通する審査員をお招きして二次審査会を開催し、最優秀賞を決定します。3月28日には高岡市の国宝瑞龍寺にて授賞式を行うほか、入賞者と本県の工芸作家・企業との交流創出を図るプログラムも実施予定です。



国際工芸アワードとやま2020ポスター

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日

会場 富山県美術館2階 展示室2

主催 富山県／共催：(公財)富山県文化振興財団、
(一社)富山県芸術文化協会、富山県教育委員会

後援 ブリティッシュ・カウンシル、中華人民共和国駐名古屋総領事館、
駐日イタリア大使館、富山県市長会、富山県町村会、北日本新聞社、
富山新聞社、読売新聞北陸支社、朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、
北陸中日新聞、日本経済新聞社富山支局、共同通信社富山支局、
時事通信社富山支局、北日本放送、NHK富山放送局、富山テレビ放送、
チューリップテレビ、富山エフエム放送、日刊工業新聞社富山支局、
富山県ケーブルテレビ懇話会、(一社)富山県ケーブルテレビ協議会、
国際交流基金、(一社)日本工芸産地協会

観覧料 一般 500 (400) 円、大学生 250 (200) 円、高校生以下無料

※ ① 内は20名以上の団体料金

| 開催概要 |

「TADのベスト版 コレクション+」 ゲストキュレーターによるクロストーク

企画展「TADのベスト版 コレクション+ —あなたならどう見る?—」の開催初日(9月19日)に、アーティストの開発好明氏、アートテラーのとに〜氏、美術批評家の林道郎氏、作家の山内マリコ氏の4名によるクロストークを実施しました。それぞれの展示に至るまでの経緯や考えを始め、実際に展示した際の作品の高さや台座など、細部までこだわったこととお話しいただくとともに、お互いの展示や作品選びについても質問し合う活発なトークとなりました。山内氏からは、公共の場に

おける女性のヌード像について考えた展示が、同じ問題意識で開発氏の展示と繋がっていた驚きなどのお話もあり、トーク後に改めて展示を見たいくなるようなトークとなりました。



当日の会場の様子

開発好明氏による公開制作「ロイからのバトン」

企画展「TADのベスト版 コレクション+」の開催初日には、当館が所蔵するロイ・リキテンスタイン作版画集《雄牛のプロフィール・シリーズ》を元に、開発氏がその続きを描く公開制作が行われました。《雄牛のプロフィール・シリーズ》は、牛の具象的な絵から、線や図形など抽象的な絵になっていく

6枚組の作品です。開発氏は、その最後の絵の続きから6枚の絵を2日間かけて制作。完成するごとに絵をリキテンスタイン作品の下に貼り、全体を見ながら、また時折お客様とも会話しながら、制作を進めました。完成した作品は、企画展期間中、リキテンスタイン作品と並べて展示しました。



公開制作の様子



完成した開発氏の作品

どこでもTADワークショップ動画

富山県美術館では、家庭でもどこでもアートを体感していただける、アーティストによる楽しい動画を配信しています(全2回)。アーティストのよしとさんによる「みかんちゃん」は紙芝居作品のアニメーション動画、画家・記録写真家の蓮沼昌宏さんによる「つくってみよう!クルクルアニメーション」ではアニメーション装置のつくり方を動画で紹介しています。

配信先
当館ホームページ、
YouTube、facebook、
twitter 等

第01回 よしとさん「みかんちゃん」 2020年8月28日(金)から配信

よしとさんオリジナルの紙芝居をアニメーションにしている動画です。お掃除が苦手なちょっぴりおちゃめな「ソウジヤヨさん」(32歳)に心を入れ替えてもらおうと奮闘する「みかんちゃん」と「リンゴくん」のお話。しかしヤヨさんは「室内にイタズラする妖精がいる!今日こそ見つけてやる!」と意気込む始末。果たして正体を見ることが出来るのか?(動画約10分)



第02回 蓮沼昌宏さん「つくってみよう!クルクルアニメーション」 2020年9月29日(火)から配信

みなさんの身の回りにある材料で、アニメーション装置をつくってみよう。バラバラマンガ等の仕組みによるアニメーションを制作している蓮沼さんが、クルクル回して楽しむことができるアニメーション装置のつくりかたを紹介します。(動画約11分)



イベント案内

アーティスト@TAD 「私の2020年」写真家・浅田政志

アーティスト@TADは、アーティストが富山県美術館(TAD)を拠点に滞在制作し、その手法や考え方をワークショップを通して人々と共有し、それら全ての活動から生まれたものを含む成果展示を開催するものです。2020年度は、写真家・浅田政志氏を招き、「私の2020年」をテーマに浅田氏の世界を紹介します。



浅田政志氏

EVENT
01

滞在制作

浅田氏が事前募集の中から選んだ富山の人を撮影します。テーマは「私の2020年」。

日 時 2020年11月中旬 ※募集は終了しています。

EVENT
02

ワークショップ

「私の2020年」のテーマのもと、浅田氏によるレクチャーのあと、助言や指導を受けながら、セルフポートレートに挑戦します。

日 時 2020年11月14日(土) 10:00-16:00 ※募集は終了しています。

EVENT
03

TADギャラリー展示

滞在制作で撮影した浅田氏の写真や、ワークショップで参加者により制作されたセルフポートレートなど、浅田氏の写真に対する思いがふれる展覧会を開催します。

日 時 2021年3月20日(土) - 5月9日(日)(予定)
会 場 富山県美術館1階 TADギャラリー
料 金 無料

座る人 V

アーネスト・トロヴァ

1990年

ステンレススティール・ガラス

35,0×48,3×25,4



ロボットを思わせるステンレス製の彫刻。この光沢のある人体像は、椅子に座ったポーズをとりながら、上半身はガラスのテーブルに倒れ込むようにかがんでいます。トロヴァの作品は、彼の制作の根底にある人間への関心により、一貫して「倒れる男 (Falling Man)」というテーマで展開されました。それらはどれも腕がなく、また横に倒れる表現もありません。その姿は平面、立体を問わずフィルムのコマを見るように、ある姿勢からの動きを連想させるよう運動的に表現されています。

また、人体の部分が展開したり切断されたりした表現には、身体の一部を機械に置き換えたアンドロイドのイメージを強く感じますが、彼にとって人間像は特定の人物像ではなく「グラフィックなシンボル」であり、機械的なものはテクノロジーが生んだ社会環境の一部なのです。すなわち、人間と機械はもはや特定の関係や対立する関係にあるのではなく、機械は手や脳の延長として生み出された肉体の一部として捉えられ、それがアンドロイドのような様相を呈しているのでしょう。

クールで無表情な彼の作品は、現代文明を受け入れ共存し続ける人間の最終形に向けた「習作」といえるかもしれません。

1927年、アメリカ合衆国ミズーリ州のセントルイスに生まれたトロヴァは、独学で美術を学び最初は人体をモチーフとした抽象画を描いていましたが、1960年代前半から金属による人体彫刻の制作を始めます。それらはニューヨークのベイス・ギャラリーをはじめ多くの美術館で発表され、1970年代にはアメリカでもっともよく知られる彫刻家の一人となりました。

世界的な時計ブランドのハミルトンが、1970年に発表した世界初となるLED式デジタルウォッチ「バルサー」はトロヴァのデザインによるものですが、その近未来的なデザインが、当時の人々に強烈な印象を与えたことでも知られています。2009年歿。(主幹・八木 宏昌)

Ernest Tino Trova, Seated Figure V, 1990.

© Trusts of Ernest T Trova under agreements dated September 13, 2007, Robert Lewis Jackson, Trustee.

富山県美術館 (TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>